

2年度十三公民館運営委員会（中止）

新型コロナウイルスの感染が急速に拡大する中で、富山県においても「緊急事態宣言」が発令され、当館においては4月15日から5月18日まで臨時休館していました。十三公民館では、例年5月中旬に開催している十三公民館の総会ともいえる、運営委員会で事業と決算報告、新年度事業計画案や予算案等について審議し承認していただいています。



十三公民館では、現在各地区から1戸当たり200円の助成金を頂き、公民館事業を行っています。その意味からも最も重要な会議ですが、今年は新型コロナウイルスの感染防止のため中止いたしました。運営委員会は、各地区24名の自治振興委員の皆さんをはじめ、旧3校区の公民館長や老人会長の皆さんなど36名の委員で構成しています。今年は会議を開かないということで、「令和2年度の十三公民館運営委員会資料」を郵送し、書面表決により次の案件について委員の賛否を問いました。

- 1 議案第1号 令和元年度事業報告、利用状況報告、決算報告、監査報告
- 2 議案第2号 令和2年度事業計画（案）及び予算（案）
- 3 その他 令和2年度十三公民館役員・運営委員名簿（案）

以上の案件について、委員36名のうち32名から回答をいただき、回答書面では全会一致の賛成をもって、全案件を承認いただきました。

十三公民館では、教養講座以外に7月のカラーリング大会、パークゴルフ大会、男性料理教室や異世代交流ソバ打ち体験教室など6事業を実施していますが、新型コロナウイルスの感染防止のため現在のところ開催日時などは決定していません。今後、感染拡大の懸念がなくなった段階で、各地区老人会長出席による各種競技実行委員会を開催し、実施の有無または実施するとした場合の日程などを決定いたします。

6月の講座案内

講座名	曜日	実施日	時間	講師名
詩吟	月	1日・8日・15日・22日・29日	10時30分～	平井静子先生
手芸	火	2日・9日・16日・23日・30日	13時00分～	
三味線	木	11日・25日	19時30分～	山下茂昭先生
茶道（保育園）	木	未定	10時00分～	

北帰行！ 故郷へ



3月 北帰行終期の白鳥

大伴家持が越中国司という公務の合間に遠く離れた故郷を偲び、舟遊びに興じたといわれる布勢の水海。この地に6年前に当時とは比較にならないほど小さい、水溜まりができました。稲の刈り取りが終わった田んぼに水が溜まったのです。地球温暖化によるものか近年は降雪量がすくなく、田んぼに雪が積もらず泥が見えることが年々多くなってきたという。布施の田んぼは稲の刈り取りが終わり、仏生寺川の水門を開けると水がたまらないのに、6年前に1枚の田んぼに水が溜まり小さな湖に白鳥がやってきたといえます。

そして、次の年やってきた白鳥の綺麗さと可愛らしさから、住民が餌を与えるようになり徐々に飛来する数が増え、現在では白鳥見物に訪れる観光客などが増えています。それまで白鳥は十二町湍水郷公園で観察できると観光パンフレットで紹介されていましたが、日中は布施の田んぼの小さな湖で過ごし、夜は十二町湍水郷公園で休む生活パターンとなったようです。

今回は50羽前後やってきたそうで、日中はカメラを携えた見物客の姿も多く見られました。白鳥はオオハクチョウと言い、その故郷はサハリンともロシア東部のコリマ川流域の湿地帯ではとの調査結果があります。布施の小さな湖で故郷の大空を思いっきり羽ばたき立派な子供に恵まれる夢を描きながら、住民などの真心こもった餌をたくさん食べて、四千キロとも言われる長い渡りのためのエネルギーを蓄えていました。

2月下旬頃から故郷へ帰る姿が見え始め、最後は2羽の夫婦と見られる白鳥が3月分7日に帰っていきました。餌を与え我が子以上に大切にお世話した人もおり、一抹の寂しさもありましたが、しばしの安堵度と道中の無事を祈り「元気な子供を連れてまたやって来いよ」と見送りましたと語っていました。



1月 餌をついばむ白鳥たち